

レジオネラ症の恐さ、ご存じでしょうか...？

レジオネラ症について

レジオネラ症 (legionellosis) は、レジオネラ・ニューモフィラを代表とするレジオネラ属菌による細菌感染症で、感染症法では4類感染症に分類されております。

レジオネラ属菌とは...？

レジオネラ属菌は、自然界の土壌や河川などに生息する細菌で、現在までにおよそ60種類が知られています。20～50℃で繁殖し、36℃前後が最もよく増殖します。アメーバなどの原生動物の体内に寄生し、他の細菌や藻類などから必要な栄養分を吸収しています。そのため、人工的な水循環設備(入浴施設、冷却塔、給湯設備)など、水が循環、または微生物が増殖しやすい環境にレジオネラ属菌が入り込むと、増殖が進み、急激に菌数が増えることがあります。

レジオネラ症の主な病型としては、重症の**レジオネラ肺炎**と軽症の**ポンティアック熱**が知られています。

レジオネラ肺炎

潜伏期間: 2～10日

症状: 全身倦怠感、頭痛、筋肉痛などの症状に始まり、咳や38℃以上の高熱、呼吸困難が見られるようになります。また、意識レベルの低下などの中枢神経系の症状や、下痢がみられることもあります。軽症例もあるものの、適切な治療がなされなかった場合には**急速に症状が進行することがあり、命にかかわる**こともあります。

ポンティアック熱

潜伏期間: 1～2日

症状: 突然の発熱、悪寒、筋肉痛などのインフルエンザに似た症状がみられますが、一過性のもので、自然に治癒します。

あまり身近には聞きませんが、症例報告数をみると年間約2000件ほどレジオネラ症の健康被害が報告されています。



年別レジオネラ症例報告数



国立感染症研究所 感染症発生動向調査週報より

厚生労働省『循環式浴槽におけるレジオネラ症防止対策マニュアル』

浴槽の水質管理として、循環ろ過器未使用の浴槽水、及び毎日完全換水型循環浴槽水は1年に1回以上、連日使用循環型浴槽水は1年に2回以上（塩素消毒ではない場合は1年に4回以上）の検査が求められています。

レジオネラ属菌や浴槽水検査をご検討の際は、お気軽にお問い合わせください。精度確かな検査を行うことで、日常の衛生検査が適切に行えているかの確認にも繋がります！また弊社では御報告書と合わせて、右のような検査済証の発行も行っております。

KHL 株式会社 **九州保健ラボラトリー**
Kyushu Hoken Laboratory

レジオネラ属菌
検査済証

貴施設の検査日における水質検査で、レジオネラ属菌は検出されませんでした。

九州保健ラボラトリー 様

検査日	2024年1月1日
検査項目	一般指標
報告書発行日	2024年1月1日
報告書番号	No. 0000000

当施設では、お客様に安心してご利用いただけますよう、検査機関で定期的な【水質検査】を行っております。

九州保健ラボラトリー



鹿児島事業所

福岡サテライト

<http://www.kyuhoko.co.jp>

鹿児島県鹿児島市小野二丁目15番2号

TEL099(218)3636

FAX099(218)3553

福岡市博多区井相田3丁目5番10号

TEL092(404)5455

FAX092(404)7015



<http://www.kyuhoko.co.jp>